

社団法人大津青年会議所は創立56年目の新たな扉を開きます。メンバー全員によって毎年毎年開け続けられてきたその扉は、近年大きく重い鉄の扉のように感じます。そして、その扉の向こうには、今度はいくつもの高い壁が立ち並び、我々メンバーは一丸となってその壁を超えて行かなければ次の扉へと辿り着くことはできません。LOMの中で当たり前のように繰り返されてきた“不連続の連続”が、当たり前でなくなる危機感に迫られているのは少ないメンバーではないはずです。

本年度基盤室は、常に「未来」を語り合いながら活動します。「まちの未来」「まちに生きるひとたちの未来」「子どもたちの未来」「LOMの未来」「JAYCEEとしての未来」…

青年会議所の組織構成は、言うまでもなく「ひと」が形成し、いわゆる人的資源以外のなにもものでもありません。大底の見えない日本経済とそれがもたらす将来の社会不安の中にあって、JAYCEEという若き資源が疲弊の一途を辿るが如く、我々はいつの間にか過去や思い出を語る集団になってしまったのではないのでしょうか。我々JAYCEEを取り巻くあらゆる環境や組織構造がどのように変質を遂げようとも、現時点から見てそれはあくまでも過去であり、「未来」という未だ誰も分かり得ない世界に目を向け、我々JAYCEEの持つリーダーシップ・発想力・瞬発力・行動力・そして情熱を活かし、常に理想とする未来を語り合い、室運営に結び付けて参ります。

社団法人大津青年会議所は今、数多く抱える問題の解決策を一つひとつ模索・検証しながらも、青年会議所運動の原点である「まちづくり」と、そのまちを形成する「ひとづくり」を同時に遂行しなければならない時代へ突入しています。青年会議所という組織さえも根本から見直していくことが不可欠な時代になっています。しかし、本年度基盤室はJAYCEEとして開けなければならない扉、超えなければならない壁から目を背けることなく、それに立ち向かい、勇気を持って「未来」に向かって邁進する活動を展開します。